

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073400588		
法人名	有限会社エム・ティー商会		
事業所名	グループホーム「虹の郷」		
所在地	長野県長野市豊野町豊野797-14		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた新興住宅地の一角にあり、近くに信越線の電車が走り、最近では、新しい家が建ち並び、以前見られた虹も見えにくくなってしまったが、その代わりに、住民とのふれあいがあり、お散歩の時は挨拶をかわし、時々、玄関には野菜やお花が届きます。スタッフも幅広い年齢層で介護に対して真剣に取り組んでおります。入居者様の意見を尊重し、常に安心と安全に心がけ、互いに思いやるといふ理念にもとづき、明るく家庭的な、笑顔の絶えない虹の郷を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで、職員の異動が多かったが、現在は落ち着きを取り戻し、ゆっくり、着実に歩み始めている。管理者との関係、職員同士、共にコミュニケーションは良好であり、理念にある「あなたらしさ」を支援していくという根本姿勢を持ちながら、「地域に根ざした」事業所作りに取り組んでいる。介護計画はセンター方式に則り、アセスメントからモニタリング・評価まで良い流れとなり、現状に即した計画となっている。介護記録は生活記録が主となっているが、利用者の小さな言葉も見逃さず、丁寧で、根気良い記録となっている。記録が、介護計画に反映されるよう様式等を検討し、これまでの努力が有効に活かされるようになることが望まれる。利用者の重度化や終末期の対応、災害対策などの課題もあるが、事業所だけで抱え込むことなく、地域や行政との協力関係をさらに築き、多くの方の知恵を借りながら、利用者の笑顔ある暮らしのために精一杯取り組まれることが期待される。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationpublic.do?JCD=2073400539&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年12月13日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2階)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加したり、日々の生活の中で常に地域の中の一員であることを職員みなで実行しております。	その人らしい生活の支援と地域に根を下ろした暮らし作りを理念としている。職員の理念への認識を高めると共に、事業所を訪れた方にも解るように理念が額入りで居間兼食堂の壁に掲げられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草とりに利用者様と参加している。散歩に出たとき、地域の方に声をかけていただいている。	地域との双方向的な親しい付き合いまでには至っていないが、散歩時の挨拶や野菜・花などのお裾分けを頂くなどのつきあいは出来ている。地域行事(草取り・清掃)への参加、子供神輿の見学、中学生のボランティアの受け入れ、小学校の運動会への参加など交流の機会を多くするよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて豊野地区区長様、自治会の方がたにも参加いただき話を聞いていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、虹の郷にて、運営推進会議を行い意見を交わしている。	本年6月に開催して以後、会議は開かれていないが、昨年6月から2か月に1度、定期的開催され、地域、行政(介護保険課・包括支援センター・安心相談員)・ご家族・長寿会の参加の下、事業所の現状や評価などが透明性を持って議題として提出され、意見交換も行われていた。今後定期的開催する計画であることを伺った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係に努めている。	運営推進会議に介護保険課・包括支援センター・安心相談員が参加し、事業所で会議が開催されるので、現状についての理解は得られている。実地指導や介護認定調査の際の接触もあり、困難時の相談や指導も受けている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、就寝中にベットから転落の危険性がある方に関しては、家族の方に許可を得てベット柵をする場合もあるが、拘束のない生活を送れるよう支援している。	ご家族から許可を得て、夜間のみ拘束を実施しているケースがあるが、身体拘束をしないケアについてのマニュアルがあり、研修も行われて、職員の利用者に対する抑圧感のない暮らしの支援は出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、マニュアルを職員全員に回覧している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた者が資料を回覧している。これから学習会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと読み合わせをし、十分な理解と納得の上、印鑑をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、意見要望箱を設置し、利用者さま家族や外部から来られた方からの声を聞けるように努めている。	レクリエーション計画や職員の異動など、さらなる情報をご家族にオープンに提供し、ご家族などから事業所を支えるための多くの提案を頂けるよう一層の工夫が必要であるが、面会時に日頃の生活の様子を伝えたり、心身の変化のある時には電話で連絡し、月に1度、写真入りのたよりを発行している。意見要望箱の設置、2か月に1度の安心相談員の訪問など、利用者やご家族の思いを聞くための機会を作っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い年間の行事・業務について意見を出してもらっている。	日々のミーティング、月1度の職員会議、必要に応じての個別面談の折に職員の意見や思いを聞く機会を設けている。管理者との関係、職員同士、共に良好なコミュニケーションがとれている。研修の機会を増やしたり、他の事業所と交流したりして職員の気付きや向上心を高めようとしていることを伺った。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを取り除けるよう努力している。コミュニケーションをとり信頼されるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、馴染みの関係を保ち、親しみを持ち、お互いが協力しあえる生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などを通して日ごろの生活の様子・変化などを話し、家族に安心していただけるよう努めている。気になる変化が見られた時は家族に電話連絡を取り合っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、馴染みの場所へ出かけたりして、安心感を与えられるよう努めている。気軽にお友達にも面会に来ていただいている。	親族との繋がりは保たれているが、知人や友人等との関係は薄くなってきている。ご家族の協力を得て、ドライブをしながら、懐かしい場所に行ったり、墓参りや買い物も行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに思いやり合っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に、合った、サポートをし、変化や必要に応じて、カンファレンスをおこない検討し対応している。	センター方式のシートから、これまでの利用者の生活歴や価値観、思い、得意分野などを把握し、職員から提案したりして、利用者の思いに応えるようにしている。居間で寛いでいる時などにフット漏らす言葉を受け止め、「今」の利用者の気持ちを理解するよう努め、その思いを実現出来るように検討している。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族の方から以前の様子を聞きまた情報提供書をいただき職員が目を通して、利用者さまとのコミュニケーションの中からも引き出せるようしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体力やペースを守り、食事やお茶の時間などを決めず、起きていただいた際に摂ってもらうようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に応じて、職員、家族間で意見を出し合い、現状に合った介護計画を行っている。	課題分析はセンター方式で行われ、利用者やご家族の意見を聞いて計画作成担当者が中心となり介護計画を作成している。3か月に1度、モニタリング・評価を行い、心身の変化に応じての見直しも行われている。	月に1度は実施状況を確認することが望ましい。又、現在ある利用者の担当制を有効活用して、介護計画の原案作りの協力者とし、同時に担当者の観察力を高める素材とすることを期待したい。介護記録は生活記録が主となっているので、介護計画の実施状況が分かるような記入方法にすることを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、気づきなどがあった場合は職員間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、変化があった場合、その都度、カンファレンスを行い、どのように対応していったらいいかを検討し、サービス提供ができるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心相談員の方に訪問に来て頂いたり近くの美容院の方に施設まで来ていただいている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する場合は、その希望に添い今までと変わらない医療・医師との関係を保つようにしている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっている。利用者の半数以上が事業所の協力医療機関がかかりつけ医となっており、該当する利用者には、月2回の往診と訪問看護ステーションの看護師が月2回健康状態のチェックに来ている。受診の付き添いはご家族が行うが、職員が代行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が現在いない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、情報提供書により利用者様の状態変化を伝え、また、退院に際しては、病院からの介護サマリーをもとに職員全員が情報を共有し、適切な介護ができるようつとめている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族に満足した終末期をむかえられるよう支援します。	終末期対応のアンケートにより、ご家族の意向は把握できているが、事業所として出来ること、出来ないことへの明確な分析がなされていないので、事業所の基本姿勢が整っていない。重度化した場合も同様である。	重度化や終末期に対する事業所の姿勢は、ご家族の今後の動きに大きな影響を与えます。まずは、事業所として如何に対応するかの指針を明確にして、ご家族のアンケート結果を踏まえて、十分に説明されることを期待します。同時にフォローアップ体制についても検討し、丁寧に説明されることを望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に早めの対応ができるように連絡網の体制を作り対応している。応急手当の講習会もおこなわれた。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を招いて避難訓練を行いました。隣の家のかたも参加してくださいました。	地域や消防署の協力を得て昼間想定での訓練を1回行った。災害対策マニュアル、避難経路図、自動通報装置などの防災設備は整っている。スプリンクラーは今後設置に向けて検討していることを伺った。	防災訓練は最低でも昼夜想定で年2回は実施されることを期待したい。2階のユニットの避難は内部階段の1か所であり、車椅子利用の方も居て困難が想定される。火災を起こさない努力や工夫をされると共に、外階段の設置や内外ともに広い1次避難場所の設置など消防署の協力を仰いで、早急に課題を解決されることを期待します。

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者様の生活歴、興味を引き出し本人を敬う気持ちを持ち声かけ対応をしている。	個人情報保護の徹底や、個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納するなど、プライバシー保護の取り組みは出来ている。利用者の誇りやプライバシーへの配慮は、研修等を繰り返し行うことで保持されるので、毎月行う職員会議を活用して意識を向上させることが有効と思われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重してできる限り希望に添うようにし、それに対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分に応じて食事や生活をサポートできるように、一人ひとりの気持ちをたいせつにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の理髪や外出時の身だしなみに気を配り、日常の楽しみや変化のある生活をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や利用者様が得意な料理を献立やおやつに取り入れ、職員が教わりながら作っている。	調理の下準備から片付け、おやつ作りは心身の状態に応じて出来る範囲で利用者と職員が一緒になって行っている。献立は3名の職員が利用者の希望を取り入れながら作成している。季節感のある食事作りを心掛けると共に、時には気分を変えて外食を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、量、バランスを考え、状況に応じた、食事を提供できるように心がけ自ら水分量の摂取が出来ない方は職員が気を配り摂取できるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアとして、歯磨きうがい・入れ歯洗浄を行いポリデントし清潔の保持を行っている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方へはその方の排泄パターンを知り、時間を見ての排泄を促し、介助の方は時間を決めてトイレでの排泄を促している。	日々の排泄記録から排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声掛けをしている。リハビリパンツや尿取りパットを使用して、排泄の不安を軽減したり、失敗した時に傷つかない配慮をしながら、トイレを使用しての排泄を介護の基本としている。リハビリパンツから布パンツに改善した方はまだ居ないが、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お散歩に出かけたり朝食にヨーグルトを取り入れたりして献立に工夫をして便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前の日からの声かけ、タイミングなど、気候や体調に応じて本人の希望に添えるように対応している。	1人週2回、1日3人の利用者が希望に沿って午前あるいは午後入浴している。重度者はシャワー付きチェア浴を利用でき、入浴拒否者には言葉掛けの工夫で対応している。菖蒲湯やゆず湯などの季節感ある楽しみも取り入れている。浴室は明るく、清潔であり、入浴をゆったり楽しめるようになっていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れないときは一緒に話をしたり、ゆったりとした時間を持って頂き一人ひとりの生活習慣に合わせて休息をとっていただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を理解して、日ごろの体調の変化に注意し、医師と相談しながら行っている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	謡の好きな方には、発表の場を作り、レクなどを通して披露していただいている。時々ドライブなどの気分転換をしたりして楽しみながら生活している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭での食事を楽しんだり、季節に応じて出かけて外食なども楽しんでいる。	事業所は住宅地にあり、交通量も少なく、近くには電車も通り、果樹園も広がるなど散策には最適であり、日常的な散歩をしている。計画に沿って、桜やバラの花見、紅葉狩り、大型商店への買い物や食事などにも出掛けている。中庭を利用して食事や外気浴などの気分転換も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、その人の生活状況におおじてスーパーなどで買い物をしていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙電話を使用して生活に楽しみができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のわかりやすいように目印をつけたり生活に不安を与えないようにしている。季節にあわせた飾りつけをして変化を楽しめるようにしている。	居間兼食堂には季節感ある飾り付けや絵画、寛ぎの場としての段上がりの畳の間、外にはウッドデッキのスペースがあり、室内は冷暖房完備により快適空間となっている。廊下は天窗からの採光があって明るく、台所からは調理の匂いや音が感じられ、落ち着いた、穏やかな暮らしの味わいがあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ、中庭にイスを置いたりして、話や気分転換が出来るようにしたり、リビングには畳コーナーを設け利用者様が休めるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との思い出の写真やつかいなれた家具などを身近に置いたり安心感を与え、生活していただけるように努めています。	ベッド(利用者によっては自前の物)と作り付けの物入れ棚が事業所で準備した物であり、それ以外は、利用者ご家族で馴染みの品々を持ち込んでいる。タンス・テレビ・写真・飾り物など居室毎、個性的に部屋作りをしている。冷暖房完備で窓からは山々、果樹園、畑、家並み、電車の見える部屋もあり、これまでの暮らしとあまり変わらない風景が展開している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所がわかりやすいように目じるしをつけ対応している。また、デッキ、中庭に出るときに、利用者様の状態に応じて簡易スロープを取り付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加したり、日々の生活の中で常に地域の中の一員であることを職員みなで実行しております。	その人らしい生活の支援と地域に根を下ろした暮らし作りを理念としている。職員の理念への認識を高めると共に、事業所を訪れた方にも解るように理念が額入りで居間兼食堂の壁に掲げられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草とりに利用者様と参加している。散歩に出たとき、地域の方に声をかけていただいている。	地域との双方向的な親しい付き合いまでには至っていないが、散歩時の挨拶や野菜・花などのお裾分けを頂くなどのつきあいは出来ている。地域行事(草取り・清掃)への参加、子供神輿の見学、中学生のボランティアの受け入れ、小学校の運動会への参加など交流の機会を多くするよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて豊野地区区長様、自治会の方がたにも参加いただき話を聞いていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、虹の郷にて、運営推進会議を行い意見を交わしている。	本年6月に開催して以後、会議は開かれていないが、昨年6月から2か月に1度、定期的開催され、地域、行政(介護保険課・包括支援センター・安心相談員)・ご家族・長寿会の参加の下、事業所の現状や評価などが透明性を持って議題として提出され、意見交換も行われていた。今後定期的開催する計画であることを伺った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係に努めている。	運営推進会議に介護保険課・包括支援センター・安心相談員が参加し、事業所で会議が開催されるので、現状についての理解は得られている。実地指導や介護認定調査の際の接触もあり、困難時の相談や指導も受けている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、就寝中にベットから転落の危険性がある方に関しては、家族の方に許可を得てベット柵をする場合もあるが、拘束のない生活を送れるよう支援している。	ご家族から許可を得て、夜間のみ拘束を実施しているケースがあるが、身体拘束をしないケアについてのマニュアルがあり、研修も行われて、職員の利用者に対する抑圧感のない暮らしの支援は出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、マニュアルを職員全員に回覧している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた者が資料を回覧している。これから学習会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと読み合わせをし、十分な理解と納得の上、印鑑をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、意見要望箱を設置し、利用者さま家族や外部から来られた方からの声を聞けるように努めている。	レクリエーション計画や職員の異動など、さらなる情報をご家族にオープンに提供し、ご家族などから事業所を支えるための多くの提案を頂けるよう一層の工夫が必要であるが、面会時に日頃の生活の様子を伝えたり、心身の変化のある時には電話で連絡し、月に1度、写真入りのたよりを発行している。意見要望箱の設置、2か月に1度の安心相談員の訪問など、利用者やご家族の思いを聞くための機会を作っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い年間の行事・業務について意見を出してもらっている。	日々のミーティング、月1度の職員会議、必要に応じての個別面談の折に職員の意見や思いを聞く機会を設けている。管理者との関係、職員同士、共に良好なコミュニケーションがとれている。研修の機会を増やしたり、他の事業所と交流したりして職員の気付きや向上心を高めようとしていることを伺った。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを取り除けるよう努力している。コミュニケーションをとり信頼されるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、馴染みの関係を保ち、親しみを持ち、お互いが協力しあえる生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などを通して日ごろの生活の様子・変化などを話し、家族に安心していただけるよう努めている。気になる変化が見られた時は家族に電話連絡を取り合っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、馴染みの場所へ出かけたりして、安心感を与えられるよう努めている。気軽にお友達にも面会に来ていただいている。	親族との繋がりは保たれているが、知人や友人等との関係は薄くなってきている。ご家族の協力を得て、ドライブをしながら、懐かしい場所に行ったり、墓参りや買い物も行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに思いやり合っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に、合った、サポートをし、変化や必要に応じて、カンファレンスをおこない検討し対応している。	センター方式のシートから、これまでの利用者の生活歴や価値観、思い、得意分野などを把握し、職員から提案したりして、利用者の思いに応えるようにしている。居間で寛いでいる時などにフット漏らす言葉を受け止め、「今」の利用者の気持ちを理解するよう努め、その思いを実現出来るように検討している。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族の方から以前の様子を聞きまた情報提供書をいただき職員が目を通して、利用者さまとのコミュニケーションの中からも引き出せるようしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体力やペースを守り、食事やお茶の時間などを決めず、起きていただいた際に摂ってもらうようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に応じて、職員、家族間で意見を出し合い、現状に合った介護計画を行っている。	課題分析はセンター方式で行われ、利用者やご家族の意見を聞いて計画作成担当者が中心となり介護計画を作成している。3か月に1度、モニタリング・評価を行い、心身の変化に応じての見直しも行われている。	月に1度は実施状況を確認することが望ましい。又、現在ある利用者の担当制を有効活用して、介護計画の原案作りの協力者とし、同時に担当者の観察力を高める素材とすることを期待したい。介護記録は生活記録が主となっているので、介護計画の実施状況が分かるような記入方法にすることを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、気づきなどがあった場合は職員間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、変化があった場合、その都度、カンファレンスを行い、どのように対応していったらいいかを検討し、サービス提供ができるようになっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心相談員の方に訪問に来て頂いたり近くの美容院の方に施設まで来ていただいている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する場合は、その希望に添い今までと変わらない医療・医師との関係を保つようにしている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっている。利用者の半数以上が事業所の協力医療機関がかかりつけ医となっており、該当する利用者には、月2回の往診と訪問看護ステーションの看護師が月2回健康状態のチェックに来ている。受診の付き添いはご家族が行うが、職員が代行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が現在いない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、情報提供書により利用者様の状態変化を伝え、また、退院に際しては、病院からの介護サマリーをもとに職員全員が情報を共有し、適切な介護ができるようつとめている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族に満足した終末期をむかえられるよう支援します。	終末期対応のアンケートにより、ご家族の意向は把握できているが、事業所として出来ること、出来ないことへの明確な分析がなされていないので、事業所の基本姿勢が整っていない。重度化した場合も同様である。	重度化や終末期に対する事業所の姿勢は、ご家族の今後の動きに大きな影響を与えます。まずは、事業所として如何に対応するかの指針を明確にして、ご家族のアンケート結果を踏まえて、十分に説明されることを期待します。同時にフォローアップ体制についても検討し、丁寧に説明されることを望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に早めの対応ができるように連絡網の体制を作り対応している。応急手当の講習会もおこなわれた。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を招いて避難訓練を行いました。隣の家のかたも参加してくださいました。	地域や消防署の協力を得て昼間想定での訓練を1回行った。災害対策マニュアル、避難経路図、自動通報装置などの防災設備は整っている。スプリンクラーは今後設置に向けて検討していることを伺った。	防災訓練は最低でも昼夜想定で年2回は実施されることを期待したい。2階のユニットの避難は内部階段の1か所であり、車椅子利用の方も居て困難が想定される。火災を起こさない努力や工夫をされると共に、外階段の設置や内外ともに広い1次避難場所の設置など消防署の協力を仰いで、早急に課題を解決されることを期待します。

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者様の生活歴、興味を引き出し本人を敬う気持ちを持ち声かけ対応をしている。	個人情報保護の徹底や、個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納するなど、プライバシー保護の取り組みは出来ている。利用者の誇りやプライバシーへの配慮は、研修等を繰り返し行うことで保持されるので、毎月行う職員会議を活用して意識を向上させることが有効と思われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重しできる限り希望に添うようにし、それに対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分に応じて食事や生活をサポートできるように、一人ひとりの気持ちをたいせつにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の理髪や外出時の身だしなみに気を配り、日常の楽しみや変化のある生活をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や利用者様が得意な料理を献立やおやつに取り入れ、職員が教わりながら作っている。	調理の下準備から片付け、おやつ作りは心身の状態に応じて出来る範囲で利用者と職員が一緒になって行っている。献立は3名の職員が利用者の希望を取り入れながら作成している。季節感のある食事作りを心掛けると共に、時には気分を変えて外食を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、量、バランスを考え、状況に応じた、食事を提供できるように心がけ自ら水分量の摂取が出来ない方は職員が気を配り摂取できるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアとして、歯磨きうがい・入れ歯洗浄を行いポリデントし清潔の保持を行っている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方へはその方の排泄パターンを知り、時間を見ての排泄を促し、介助の方は時間を決めてトイレでの排泄を促している。	日々の排泄記録から排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声掛けをしている。リハビリパンツや尿取りパットを使用して、排泄の不安を軽減したり、失敗した時に傷つかない配慮をしながら、トイレを使用しての排泄を介護の基本としている。リハビリパンツから布パンツに改善した方はまだ居ないが、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お散歩に出かけたり朝食にヨーグルトを取り入れたりして献立に工夫をして便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前の日からの声かけ、タイミングなど、気候や体調に応じて本人の希望に添えるように対応している。	1人週2回、1日3人の利用者が希望に沿って午前あるいは午後入浴している。重度者はシャワー付きチェア浴を利用でき、入浴拒否者には言葉掛けの工夫で対応している。菖蒲湯やゆず湯などの季節感ある楽しみも取り入れている。浴室は明るく、清潔であり、入浴をゆったり楽しめるようになっていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れないときは一緒に話をしたり、ゆったりとした時間を持って頂き一人ひとりの生活習慣に合わせて休息をとっていただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を理解して、日ごろの体調の変化に注意し、医師と相談しながら行っている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	謡の好きな方には、発表の場を作り、レクなどを通して披露していただいている。時々ドライブなどの気分転換をしたりして楽しみながら生活している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭での食事を楽しんだり、季節に応じて出かけて外食なども楽しんでいる。	事業所は住宅地にあり、交通量も少なく、近くには電車も通り、果樹園も広がるなど散策には最適であり、日常的な散歩をしている。計画に沿って、桜やバラの花見、紅葉狩り、大型商店への買い物や食事などにも出掛けている。中庭を利用して食事や外気浴などの気分転換も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、その人の生活状況におおじてスーパーなどで買い物をしていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙電話を使用して生活に楽しみができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のわかりやすいように目印をつけたり生活に不安を与えないようにしている。季節にあわせた飾りつけをして変化を楽しめるようにしている。	居間兼食堂には季節感ある飾り付けや絵画、寛ぎの場としての段上がりの畳の間、外にはウッドデッキのスペースがあり、室内は冷暖房完備により快適空間となっている。廊下は天窗からの採光があって明るく、台所からは調理の匂いや音が感じられ、落ち着いた、穏やかな暮らしの味わいがあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ、中庭にイスを置いたりして、話や気分転換が出来るようにしたり、リビングには畳コーナーを設け利用者様が休めるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との思い出の写真やつかいなれた家具などを身近に置いたり安心感を与え、生活していただけるように努めています。	ベッド(利用者によっては自前の物)と作り付けの物入れ棚が事業所で準備した物であり、それ以外は、利用者ご家族で馴染みの品々を持ち込んでいる。タンス・テレビ・写真・飾り物など居室毎、個性的に部屋作りをしている。冷暖房完備で窓からは山々、果樹園、畑、家並み、電車の見える部屋もあり、これまでの暮らしとあまり変わらない風景が展開している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所がわかりやすいように目じるしをつけ対応している。また、デッキ、中庭に出るときに、利用者様の状態に応じて簡易スロープを取り付けている。		